学校をつくろう!通信

がっこう・N.P.O.
珊瑚舎スコーレ
第140号

学校の役割　　その １１９

まず、お詫びと訂正をしなければなりません。前号でご紹介した北海道在住の方で、沖縄戦で犠牲になった方々の遺骨の収集をしていらっしゃる方をご紹介しましたが、僕の記述内容に誤りがあり訂正を求めるFAXを頂きました。「毎年4,5回、20年近く沖縄に来て一人で遺骨収集をしているそうです。今までに3,000体近くの遺骨を収集したそうです。」の記述はお一人で 3000 体ちかくの遺骨を収集したと受け取れます。皆さんとの協力を蔑ろにしているように受け取れる記述でした。お詫びするとともに、「お一人で北海道から参加し、集まった方々と協力し遺骨の収集をなさっている」と訂正させて頂きます。申し訳ありませんでした。

前号で北海道に珊瑚舎スコーレを開設する理由について書きました。北海道での学校づくりに向けた現状のご報告です。函館の五稜郭近くに北教組渡島支部が所有する渡島教育会館をお借りして開設を考えていた「珊瑚舎スコーレ・モシリキャンパス・函館教室」(モシリはアイヌ語で北海道などの意)は渡島教育会館の内装を大幅に改修して使用しなければならず、その改装の内容をお伝えしましたが、現況での使用を考えている渡島支部のご了解を得られず、残念ですが取りやめになりました。しかし、その間渡島支部の方たちはじめ、多くの方と珊瑚舎スコーレの学校観についてお話しする機会を作って頂いたことには大変感謝しております。今後もお付合いをさせて頂きたいと願っております。

現在、コロナ感染予防対策のため北海道行きを控えておりますが、札幌と小樽に跨る約2000坪の土地購入の手続きを進めております。4 月には学校法人雙星舎の所有地になる予定です。予定地は札幌駅から３０分足らずの最寄り駅から徒歩５分ほどです。南には山並みが間近に迫り、北は石狩の海に程近く、東の境は僅かですが今でも鮭が遡上する川に面し、西の境は県道を隔てて小樽市の新興住宅地です。こんな風に書くと随分結構な立地条件で、学校づくりには最適のように思えます。しかし、その土地を珊瑚舎スコーレ開設のため利用するにはいくつかのハードルをクリア―しなければなりません。コツコツと息の長い取り組みが必要になると思います。みなさんのお力をお借りしなければならないことが多々あると思います。とりわけアイヌや北海道在住の方々のご協力を頂き、アイヌモシリの地に必ずや、珊瑚舎スコーレの燈を点したいと思っています。

渡島支部のご紹介で小樽と富良野の方とコンタクトをとることが出来ました。コロナが勢いを潜めた時期にお訪ねし、珊瑚舎スコーレの学校観や珊瑚舎スコーレ・モシリキャンパスについてお話させて頂こうと思います。でも、あとひと月ちょっとすると７３歳、“不要不急の外出などないよな”と思いつつ“ご先方や世間に気配りすることも大切だよな”と言い聞かせ、沖縄を出ないようにしています。

沖縄の状況もお知らせします。馬天の新校舎は、コロナウィルスと職人(主に大工)不足の影響で工事がずいぶん遅れています。当初、高等部の入学講座は新校舎で実施することにしていましたが、２月７日の一回目の入学講座に間に合わず、津波古公民館をお借りして実施することになりました。３月２１日の２回目も津波古公民館での実施も視野に入れて準備をしています。

４月から従来の４課程に加え、休講中の専門部のコンパクト版「結塾 花綵(ゆいじゅく はなづな)」を夜間に開講することになりました。また、詳細は後日お知らせしますが、４、５歳児対象(認可外保育園)と小学１～３年生対象の「珊瑚舎 キッズ スコーレ」を山がんまり間近に開設する準備を進めています。どうぞ、よろしくお願い致します。(ほ)

がじゅまる
しんかぬちゃー

（生徒・学生のコーナーです）

様々な行事が出来なかったり縮小したりせざるを得ない状況が続く中、生徒達と話し合った末、昨年末の行事「とぅんじーあしび（冬至遊び）」は、昼夜の生徒、講師・ボランティア、スタッフのみで行うことになりました。観客も少ないながら、昼の生徒達は縦割りのグループや有志で出し物を決めたり、夜間中学校の生徒達も道具をそろえた沖縄芝居（3匹のコブタが基）や講師の飛び入り参加など、とても楽しく気持ちの良い時間を過ごすことが出来ました。生徒の声を紹介します。

「とぅんじーあしび」　　中等部　上原璃空

とぅんじーあしびと（冬至遊び）とは毎年生徒たちだけで作る、年末パーティーです。基本的には、学校で習ったことはやってはいけなくて、４日間という短い準備期間で発表の内容を作っていきます。今回の場合、生徒達は初等部から高等部まで、縦割りでABCのグループに分かれて発表の練習をしました。また、ABC のグループ以外でも個々のグループ（有志）での参加もでき、僕も友達と一緒にノリで参加しました。

今までの僕では絶対にいやだと言っていましたが、珊瑚舎に入ってから１年間で自分でも信じられないほど成長した気がします。

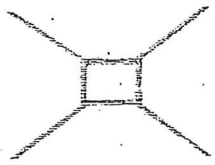
生徒たちは毎年イベントにすごく気合が入っていて、皆でテーマを決めてそれに合わせて、でっかい壁紙を作ったりステージを組み立てたり、折り紙で飾りつけをしたり、いろんな会場設営を皆と一緒にがんばって作っています。今回僕は司会だったので、壁紙班と飾りつけ班を行き来していました。

皆時間がない中やりくりしていて、居残りしながら作業していきました。とてもがんばっていました。そんなこんなでとぅんじーあしびの当日、僕は初めての司会だったので、何をしていいのかわからずとても緊張し、初めは手が震えていました。

まず最初、必ずオープニングで寸劇をして注目を集めます。（＊今年のテーマは１つにしぼりれず、音符、岩石、大根おろし。劇では音符の世界の音符たちが「とぅんじーあしび」に参加するという道中劇でした。）　その後はABCと有志グループ、飛び入りの発表をしていきます。発表の内容までは紹介しきれないですが、どれも本当に力作ばかりでした。

どんどん発表が終わっていき、最終章ではみんなでメドレー。歌のサビの部分を１９曲ほど歌います。歌う意味はわからないけど楽しいです。歌い終わったら、しめには沖縄の文化のカチャーシーを踊ります。これにてとぅんじーあしびが終わりました。

最後に珊瑚舎楽しい！



アタカービーマ
（かえる）

～山がんまりだより～

子どもがんまり

今年度 2 回目「子どもがんまり」の講師は、沖縄大学盛口（ゲッチョ）ゼミの学生達。参加者と学生とゲッチョと、それぞれから言葉をもらいました。

「子どもがんまりに参加して」

瑞慶山　道子（参加保護者）

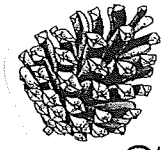
初めて訪れた山がんまりは、自然の中に出現したプレーパーク（冒険遊び場）のようだった。巨大ぶらんこ、ターザンロープ、ツリーハウスを目にした７歳と４歳の兄弟は歓喜の声を上げて一目散に走りだして遊びふけった。

ひと遊びして沖縄大学のゲッチョゼミの学生さんのカリキュラムが始まると、ろうそくについてのお話を興味津々で聞いていた。低学年の子どもに分かりやすい親しみのある話し方で、イラストや原料見本など下準備をしっかりして臨んでくれているのが伝わってきた。

竹と写真フィルムの笛づくりからは、身近な素材からおもちゃを生み出せる経験（自信）や、筒を短くした方が音が鳴りやすいという知恵を授けてもらっていた。(リースづくりに至っては子ども以上に親が楽しませてもらったくらいだ）昼食を済ませ解散となった後も、「帰るよ～！」という大人の声が耳に入らない程、熱中して遊んでいた。学生さんたちがふんだんに一緒に遊んでくれたことも嬉しかったのだろう。

山がんまりは素晴らしい場所だった。この場所を、珊瑚舎スコーレの歴代生徒さんたちが開墾し維持（里山の建造物は自然に還ろうとするスピードも速いだろうに）されていることに敬意を持った。
自然界はいろんな微生物や細菌が常に競合することで調和が保たれている。だから新しいウイルスも無機質な閉鎖空間のように長くは活動できず淘汰されやすい、という説を耳にした。うがいや手洗いも大切だけれど、そもそも、土（常在菌）から離れすぎる現在の暮らしこそ不自然なのかもしれない。そういう点でも、山がんまりを開放し遊ばせてもらえたことがありがたかった。

なかなか不特定多数を集める企画自体が難しい昨今、自然がんまりを開催してくださりありがとうございました。ぜひまた再訪したいです。



©ゲッチョ

「子どもがんまり自然学習」

沖縄大学こども文化学科　盛口ゼミ
照喜名愛香

２０２０年１１月２９日、３年次盛口ゼミ主催の子どもがんまりを終えて、授業者側からの意見と授業のサポート役からの意見も踏まえ、感想を述べたいと思います。

授業をしてみて、子どもの発言力に驚いた。私たちが予想していた以上に、発問に対しての子どもの発言が予想外であった。例えば、電気のない暮らしでどのように明かりを灯していたか、という発問に対して、ろうそくという解答は予想していたものの、「たいまつ」や「蛍を集めていた」などといった解答があった。授業を作る際に、子どもがわからなかった時を予測して、よりわかりやすい表現、わかりやすい説明を用意していたが、子ども達の情報力に驚いたと同時に、子ども達から出た解答を広げることが出来るだけの知識量が無かったのが、非常に悔しかった。

しかし、子どものリアクションが直に伝わるので、授業をしていて発言が多かったことで子どもと一緒に授業をしているように感じてとても楽しかった。この経験を活かし、これからの学生生活では、発問や発問に対する答えの知識の掘り下げができるように授業づくりをしていきたいと考える。

授業のサポート役からは、やはり実験の反応が良かったということが印象的だった。実験の度にどんどん子ども達が近づいてきているのを見て、がんまりに来ている子ども達は積極的に学ぼうとしている姿勢が感じられた。実験という視覚的に興味深い活動を取り入れることで、子どもの学びたいという興味、関心を引き付ける着火剤になるとわかった。授業後の笛づくりやクリスマスリース作りの際には、「俺は作らない」と言っていた小学４年生もいたが、周りの子が作っているのを見て、「どうやって作るの？」と聞いてきて、完成した作品を手にして「上

手にできたよ」と学生に見せにきていた。その時、子ども達に無理矢理活動を強要させては、子ども達の意欲を削いでしまうが、子どもが自ら「したい」と考えて行動することに関しては、子どもの自己肯定感を上げることにもつながるということを今回の活動の中であらためて実感できた。

竹筒に慎重に切れ目を入れてキャンドル作り

好きな香りと色をつけて出来上がり！

「子どもがんまりに関わって」

沖縄大学　盛口　満（ゲッチョ）

沖縄大学・盛口ゼミ３年生は、いずれも小学校教員養成課程に所属している学生たちだ。ここ数年、子どもがんまりのワークショップを学生たちと一緒に考え、学生たちに当日の運営を任せると言う実践を行ってきた。今年度は、個人的な興味ときっかけから、ロウをテーマとしたいということを学生に持ちかけた。ゼミで事前におこなったのは、ハゼの実からロウを取り出す実験や、マッコウクジラの脳油の成分（商品名、スパームアセチ）を使ったロウソク作りといったもので、これらの内容を取り組んだワークショップを、クリスマスにちなんだリース作りなどとからめて、当日の内容を決定した。学生にとっては、「生」の子どもたちと接する貴重な機会であり、またスコーレの活動に触れるという意味でも貴重な機会だった（その後、スコーレの校外活動「山がんまり」にも学生たちは参加していた）。今後も、このような機会があれば、学生の育成の上で、大変ありがたいと考えている。

山がんまり

一昨年の12月、初めて「がんまり窯」の火入れをしました。ただひたすら薪を入れ時間をかけて800度まで上げることを目指しました。昨年末は作品を焼くことがメインです。泊まり込みで火の番をしてくれた生徒と今回、火入れの指導をしてくださった方からの声を紹介します。

「がんまり窯」　　中等部　平良栄太

今回、二年目の参加ですが、前回と大きく違う点は、まず温度が違いました。そしてみんなで作品を作って焼いてみました。前回は徹夜で800度を維持していました。ですが今回は前回よりも断然早いペースで1000度を維持していました。最初の5時間は200度を維持し、3時間後、500度まで上げます。4時間後800度まで上げます。次、目標は1000度です。2時間後、ついに1000度!!　いったのはいいですが、1000度以上を維持するのは、思っている以上に大変でした。窯の目の前にいけば猛烈に高い熱が顔や腕をおそってきます。

前回とは違い、窯の横からも薪を入れますが、そ

こだけではまったく温度が上がりませんでした。窯の前の方から大きな丸太を何本か入れます。難しい点は他にもあります。その大きな丸太を入れると、手前だけしか温度が上がらず、奥の方まで熱を送りたいので横からもバンバン入れます。横からは、細長い木しか入れられません。そこが大変でした。

最初に戻ります。次は火の焚き方です。前回は、だいぶ奥の方から火を焚いていましたが、今回は焚き口の超手前でやりました。ほぼ窯の外です。なぜ手前でやるかと言うと、手前から小さい火でジワジワと奥までいくと窯の壁にそって温度が上がっていくからです。それは見事に最後まで上手くいきました。みんなが作った作品もきれいに焼けました!!がんまりで泊りで窯を焚くのは２回目ですが、本当に楽しかったです。

初めての焼き物作品

焚き始め・生徒達が交代で火入れをします。

「子供たちの学びの窯で」

2021年１２月22日(風の時代に変わった日)

こだま土　荏原 麻理（陶芸作家）

窯は器を生み出す
だから火を焚くのは男性
窯焚中は女の人は入っては
いけない
「火が暴れる」
といわれている。
けど山がんまりの薪窯は
子供たちの学びのために
作られた小さな穴窯
火の神様は子供たちの声が聞きたいのだろう
そんな事を思いながら
子供たちと一緒に火を入れました。
現代は
物があふれていて物がどう生まれてきたか
など考える事もなく
物が溢れ過ぎてる時代

沖縄の赤い土を子供たちが
粘土にして
薪で焼く
この経験から
物の事
どこからどう産まれたのか
誰が何のために作った物なのか
そして
物を売り
お金にする
そのお金でご飯が食べれる
食べる事が生きる事
そこまで
繋がってほしいと思いながら
子供たちと
窯の火の番をしました。

子供たちは自由にやってる。
私は子供たちに自由ではなく生きるを学んでほしい
そう思いました。
子供たちの力は想像以上に
強く
焼成温度も1100度まであがり結果とてもとても
良い焼き上がりでした。
さすが
子供たち😊

今回は
植木鉢を作って
新しい新校舎の誕生祭で
売ります。

沖縄のやちむん
から
たくさん学んでほしい。

珊瑚舎スコーレの新年は「新春朗読バトル」で始まります。初顔合わせには「自作の２作品を持ちよる！」というお約束。この自作品で１回戦、２回戦と挑みます。負けても敗者復活戦で残ることが出来るので最後まで気を抜くことはできません。準決勝は事務局が用意した作品を、決勝では会場からお題をもらい即興で作った作品を朗読します。自分の言葉がいかに聞き手に伝わるか。朗読はもちろん選ぶ言葉や内容も勝敗を左右します。優勝者には「珊瑚舎杯」と「チャンピオンバンダナ」が贈られます。

今年初のお題は「うず巻き」（詳しくはHPをご覧ください）。このお題に挑んだのは中等部アオイと敗者復活戦で勝ち上がってきた高等部ルウ。見事、チャンピオンの座に輝いたのはルウでした。２人の即興作品を紹介いたします。

「うず巻き」　　中等部　折尾　葵

ぐるぐるぐるぐる
ぐるぐる
いま　わたしの中で　なにかが生まれた

★　★　★　★　★

「うず巻き」　　高等部　住田　瑠羽

この世界は　うずまきであふれている
まず宇宙を見てみると　銀河があり
地球を見てみると　台風があり　竜巻があり
そしてさらにその地球の小さい国
いや、島というべきか　沖縄を見てみると
俺がいる
俺の頭の中も　うずまきがあり
そして俺の心の中にも　うずまきがある
つまり　頭と心は　いま　ぐちゃぐちゃな状態
このうずまきが　晴れるときがあったら
もう少し　面白い人間に　なれるのであろうか

ティン　カキジャー
（天までつづく）

ふくぎのふぁー

（講師・スタッフのコーナーです）

「迷いがたのしい」

賀数仁然（琉球沖縄史講座担当）

「この学校の先生はみんな迷っていますよ、正解はないんです、だからいいんです」最後の授業で生徒に教えられた言葉です。沖縄の歴史文化が好きなだけで、教員免許もない私が、生徒たちの前で教えるなんて。2020年４月から珊瑚舎スコーレ高等部に、「琉球史」が設置され、教える機会を得ました。挑んだ初回の授業は、リモート授業でした。想定外だらけの船出でした。対面型が始まっても、「生徒と作る学校」というイメージだけで、珊瑚舎だから許される、いや珊瑚舎だからできた１年…というのが率直な気持ちです。他の先生も、私の授業を見学にいらしていたし、とりわけコロナ感染拡大で、学校も、そして生徒も戸惑いの１年だったと思います。私が最初に目指したことは、とにかく生徒に興味を持ってもらうこと。独自の歴史文化といわれながら、太平洋戦争前後以外、あまり触れる機会もなく、なじみがありません。私が目指したのは、沖縄の歴史に少しでもオモシロイと感じてくれたらO.Kということでした。そのためには、歴史というジャンルにこだわらず、島の成り立ち、地理的条件、それにあわせた風土や民俗（行事や風習）の話なども、取り入れました。結果として、毎回授業はとりとめのない話が多くなってしまいました。学校行事も全く参加できないうしろめたさもあり、課外授業を提案してみました。グスク巡りです。教室で話したことを、現地で見て、何かを感じ取ってもらえたらと。途中天気が崩れ、車の中で震えながら食べたお弁当は、楽しかったです。生徒たちも実物を見て何か変化してきたことがわかりました。行って実物を確かめることができる。これが郷土史の良いところです。この日にようやく興味が喚起につながったと感じました。そして、今度は私に欲が出てきました。自主的に楽しさを、自分たちの言葉で、誰かに伝えて欲しい。そんな思いが膨らんできたところでしたが、しかしもう時間がありません。次年度より佐敷校舎移転もあり、年が明けたと思ったら、生徒たちとの時間も残り少なくなってきました。ところが１月のある日。２月にある学習成果を発表する「うりづん庭」に高等部で発表したいと、自主的に手を挙げてくれました。本当に心から嬉しく思いました。最後の授業で、１年間迷いながらここまで来たことを告白すると、最初の言葉を添えてくれました。僕も成長できた気がします。うりづん庭での発表がドキドキです。

第20回　春の学校・うりづん庭（なー）

ご案内

「春の学校・うりづん庭」は学年末に行われる珊瑚舎スコーレの学習発表会です。一年間の学びを以下のような形で発表するほか、各教科の展示を行います。

★2月20日（土）（開場13時）

13時半～15時「まれ人講座」

まれ人『せやろがいおじさん』

榎森耕助（えもりこうすけ）さん・お笑い芸人

★2月21日（日）（開場9時）

9時半～12時

・生徒が作る授業　2作

＊テーマ「　海の環境問題」　「本」

13時～15時

・舞台発表

15時15分～16時半

・第18回　卒業を祝う会

開校20周年記念
琉球ミュージカルのお知らせ

『風（かじ）とぅ土（ンチャ）』

珊瑚舎スコーレは来春、開校２０周年を迎えます。開校以来、多くの方々の支援により生徒達と活動を続けることができました。ありがとうございます。開校をかわきりに、５年ごとに生徒達がつくるミュージカルを上演してきました。２０周年では、第一回まれ人講座にお招きした詩人谷川俊太郎さんからいただいた連句の発句「種子はこぶ　風はまれ人　土はきみ」をもとに、生徒達があらすじを書き、それを講師が脚本化しました。南城市馬天の新校舎にて上演します。是非、お越しください。（今後のコロナの状況によっては上演形態に変更があるかもしれません）

日時：２０２１年４月４日（日）午後１４時開演
場所：南城市佐敷津波古新校舎
入場料：１０００円
（定員１００名、事前予約が必要です。）
＊詳細は別紙をご覧ください。

＊なお、オンライン配信（有料）をしますので、ご希望の方はメールにてお申込み下さい。

★　★事務局便り　★　★

★　何回かお知らせしていますが、今年度は開校20周年の行事があるため、例年３月に行う「春の学校・うりづん庭」を２月に行います。１年間の学びをまとめる各教科の自己評価ノートの記入を終え、学習発表会の準備に入っています。授業作りはすべて生徒に任されているので、これからの２週間が山場。その間を縫ってミュージカル「風と土」の練習もあります。高３の卒業予定者は卒業課題「文章による自画像」を書かなければならない等など、体が幾つあっても足りないとぼやく声が聞こえますが、新しいことに挑戦するんですから当然ですよね。

★　４月に移転する校舎は前が海です。小さな浜が２つあります。１つは「前（めー）の浜」（そのままですね）。もう１つは「天（てぃん）の浜」。ビーチではありませんよ。中城湾の奥に位置しているので浜にはいろんな漂着物が流れ着きます。ウミガメの死体、東南アジア方面から流れてきたゴバンノアシ、コウイカやモダマ（巨大な豆）。そして多くのプラスチックゴミ。昨年の６月頃から月２回ほど浜掃除をするようになりました。先日も生徒達と浜に行くと、ほとんどゴミがありません。こんな日もあるのかと思いながら、防風林の中に埋まったゴミを拾い出しました。校舎を作っている大工さんが、このところ近所の方々がゴミ拾いをしているんだよと言うのです。聞くと、４月からここに学校がやってくる、子どもたちが遊ぶ浜が汚いのはよくない、なんとかきれいな浜であって欲しいと自主的に始められたそうな。有難い。来ていいんだよと手をさし伸べられた気がします。ありがとうございます。

★2月１日に起こったミャンマーのクーデターに抗議する記者会見を沖縄に住む友人たちが行った。ミャンマーでは自由にデモができる状況ではないため、毎晩８時に１５分間鍋を叩いて抗議の気持ちを表しているそうだ。鍋ならどこの家庭にもあり、誰でもできるからだ。

★　★　★

●今年度（12月１日～1月31日）寄付・カンパを頂いた方々
石田みどり鹿糠文子坂本和子岡村健手塚賢至照本祥敬市野寿子当山幸江森口美千惠三浦幸子山田道子助川寿美子式部惠子丹羽雅代與儀勝子与那覇晴海湯本貴和上田秀一大城喜春北上田登久子盛口佳子真津昭夫家門収一長嶺由紀子橋川由美子小渡律子幸地江美子城間おｎあずき松茂良米子名城悦子所扶久代石野裕子矢崎智章尾崎せき松田晴代萩原真美城間栄順村上呂理伊波雅子仲里博彦下地孝野村佳雄西山哲平智海竹内新大城博長美枝子野村佳雄横山真由美儀間小夜子岡部勉高野澄夫浦川聖浦川祥子石川宮城邦昌工藤英子脇元美智子辰巳万里子橋川由美子小野寺恭子辻口光生新垣良宏新垣由美子安田圭太郎武田冨美子西原邦男安慶名つる子麻鳥澄江鈴木隆文泉惠子金益見野畑有裕康村松文子友寄和子加藤澄子諸見里安信関宏子山城千秋上間陽子砂川明利有）ラボータ穴田浩一堀川直子幾代昌子安渓大慧安田あゆ子古堅苗上野文康

発行者　：珊瑚舎スコーレ
事務局　　遠藤知子
住　所　：〒900-0022　那覇市樋川 1-28-1-3F
Tel　　：098-836-9011　Fax：098-836-9070
Mail　info@sangosya.com
URL　　：http://www.sangosya.co